

議事の要旨

- 松本 会長 【資料 2 について】
バスレーンの導入などについても支援頂けるのか。
- 辻オブザーバー ハード対策については整備局で、ソフト対策については運輸局で支援することになっている。
- 松本 会長 バス車両の購入等については運輸局で対応して頂けるということですね。ありがとうございました。
- 【資料 3、4 について】
- 松本 会長 これまでの説明で不明な点があれば、お願いします。
- 江川 委員 市民意識の中で、公共交通の満足度が第 4 位に対して、公共交通への期待が 24 位とは、不満だけ改善に対する期待がないということか。
- 事務局 どちらなのかを判断するデータがないので、みなさんの声を確認するために交通事業者さんも含めたヒアリングを考える。
- 松本 会長 どのような聞き方をしているのか。
- 事務局 毎年同じ聞き方をしている。便利さについては、乗継の善し悪しなどが関係していると思う。
- 松本 会長 一般的には、重要度と言う聞き方がある。総合交通政策の中では満足度を高める施策を整理していきたい。
- 資料 4 については何かあるか。安全で快適に移動できる環境、まちづくりを進めていくことが必要である。みなさんから見た、四日市市の交通問題として何があるか、順番に取組課題について発言して頂きたい。
- 西田 委員 乗合バスの活用として、都市として中心市街地への行動を創り出すことが必要と考えている。
- 雨澤 委員 自動車利用が多い中での共存策として、駅前で、無料で駐車できるようにすることで、鉄道への乗り換えの利便性を高めていくことが必要である。以前は四日市駅前に来るものだったが、今はまちなかの魅力が少なくなってきたから、まちなみの魅力を高めていくことが必要と思う。
- また、逆に郊外の店舗へのバスアクセスについても検討していくことが必要と思う。
- また、北勢線の利用者の予測をしているが、実績がついてこないことで、今後の計画も立てにくい。LRTなどの導入も考えられるが、計画どおりに運営していくが難しい状況である。
- 西脇 委員 どのようなバスなら乗るのか、アンケートなどをとり分析して、自分たちで何とかしようとした。地域住民が主体になり、事業者、行政のコラボで 7 年目を迎え、当初の 25 人から現在 1 日 100 人を超える利用者がある。
- 料金の問題はあるが、商店、銀行など必要なところを走行している。現在 31 か所のバス停を設定しており、フリー乗降については公安からダメと言われたが、今後バス停までの距離を短くするなど改善をしていきたい。
- 江川 委員 市内線（内部線、八王子線、湯の山線）の需要は平成 21 年になり、景気停滞やインフルエンザなどの影響により減少しており、高速道路の料金割引などへの対策も必要になっている。公共交通機関のあり方、重要性を踏まえてこの準備会の中で検討していきたい。

- 山本委員代理 鈴鹿駅に特急・快速を停車させ、P & R 駐車場を整備した。高架下駐車場を整備した結果、快速の利用者が増えた。亀山からきている人も車で来て利用している。こんな取組も必要と思う。
- 石川委員代理 4年前に温暖化への取組として、ジャスコの駐車場を使ってP & Rを実施した。この結果を活用していくことが必要と考えている。P & B Rは難しいが成果が上がるような取組をしていってほしい。中心市街地の活性化に関する検討項目がある。荷さばきの社会実験結果も活用して良い方向を検討していきたい。
- 高野 委員 四日市市の持続可能な実現に向けた対応として、現在、車で動いている人も将来、公共交通がなくなったら動けなくなる。車に乗れなくなったらどうするのか、住民ひとりひとりが考え、現状維持を最低ラインとしていくことが必要である。
- 野浪 委員 交通安全、事故防止の観点から、飲酒運転しなくてもよいように、バス、タクシー、運転代行なども合わせて実施していくことが必要である。また、交通ルールを守ってもらうための教育も必要である。また、通学路の安全対策として、道路の設計も合わせて他の交通とどのように分けて行けばよいのかの検討が必要と思う。
- 稲葉 委員 四日市の交通事故件数は減少しているが、交通の流れ、道路構造の改善、とともに、公共交通を増やし、車を減らしていくことが必要と思う。全国的には高齢者の事故や高齢ドライバーの事故も増えている。高齢者には、自主返納制度もあるが、今後、車に依存しないでも動けるような交通政策が必要と思う。
- 奥出 委員 国道1号、23号を管理しており、今年度は国道23号の江戸橋～三重大学までの区間は歩道も狭いが、自転車道の拡幅を進めている。
- 辻オブサーバー 四日市市は公共交通のサービスに恵まれている。今後の政策の検討では、このような公共交通をうまく活用して欲しい。
- 白木委員代理 今後の高齢社会において、公共交通が重要であることをもっと知らせることが必要である。また、中心市街地では、物流効率化に関する社会実験を行っており、この結果も活用して検討を進めてほしい。
- 亀井委員代理 コミバスと一般路線バス、鉄道等を含めた公共交通ネットワークとして計画していくことが必要である。また、買い物での利用が少なくなっているが、中心市街地を支える計画も必要と思う。また、P & Rなど、自動車の利便性を活かした計画を検討してほしい。
- 渡辺 委員 近鉄四日市の川原町で連立事業を実施している。このような結果も公共交通の利用促進につながると思う。
- 中森委員代理 放置自転車の管理を担当しているが、駐輪場はどこもいっぱい、検討が必要と考えている。また、交通安全として8名の指導員による小学生の交通安全指導を行っているが、今後、高齢者の安全確保に向けた仕組みづくりが必要と考えている。
- 山本 委員 今後、まちづくりをどうしていくのか検討していくことが必要である。また、市民をうまく活用したNPOづくりなどを行い、コンパクトなまちづくりに向けた取組を進めていくことが必要と思う。また、学割については事業者の負担だけではなく、世の中全体で実施していくことが必要であり、応分の公共負担の考え方を整理していくことが必要と思う。
- 伊藤 委員 事務局として、みなさんの意見を反映させて頂いて、計画を策定していき

たい。なお、私自身、3年前まで車通勤だったが、現在はバス、鉄道利用で通勤している。公共交通を維持する利用者の意識が重要と思う。

松本 会長

みなさんの意見も含めてまとめると、

- ・公共交通の充実は重要だが、自動車は便利なので自動車をうまく使う、みんなが集まるところは公共交通をうまく使うことが重要だが、その前に、まちの魅力を高めていくことが必要である。
- ・公共交通がいくら便利になっても利用者は増えない。市民との合意のもとに、自動車をいじめる施策も必要になる。
- ・今後の検討では、まず、総合交通としてのビジョンを描いて、市民合意のもとに施策を進めていくことが必要である。
また、住民に公共交通利用を働きかけていくことが必要であり、自動車がなくても公共交通を使うことで移動できることを示すことが重要である。
- ・四日市市民にとって、良い交通環境を作り上げることが重要であり、P & Rの失敗の理由を活かしていくことが重要である。
- ・事務局の方で、今日みなさんから頂いた要望にどのように対応していくのか、整理しておいてほしい。